

# 図書館通信 — 43 —

1978. 2

## 気になる初夢

浜松分館長 井本文夫

また正月が巡って来た。六人兄弟の末っ子だった私は子供心に、正月は難しいカルタをやるものと思い込んでいた。双六やトランプもやったが、家族全員でやるのはやはり小倉百人一首だったのである。実力で子供達を寄せつけなかった両親が、やがて読み手専門に回って、四人の姉達が鏝を削って競う時代には、私も得意札を抱え込んで、専ら手の早さを買われてスカウトされる喜びを味わったものである。

百人一首の中には「かくとだにえやは伊吹の……」のように技巧的で難解なものもあるが、「久方の光のどけき……」に代表されるような、流麗な中にももの哀れを歌い込んだものが多く、自分にもありそうな歌心を喚び醒される思いがするばかりでなく、いろいろな仮名の字体に接する楽しさもある。一方、ゲームとしての面白さも相当なもので、自分の手番のある碁将棋が動かぬ球を打つゴルフに対応するとすれば、スピードを問題にするこのゲームは卓球に対応するだろう。但し卓球のようなまぐれ(僥倖)はめったにない。

百人の作者の生存期は600年代から1200年代まで長期にわたり、当時の歴史的背景を併せ見るとき、一段と興味深いものがあるが、ここでは選者の苦労に敬意を表したい。その大部分を選んだ藤原定家は、恐らく何千首もの作品を調べたに違いない。波乱の世にあって、古代を中心とする和歌の世界を百首にまとめた功績は大きいと思う。

ところで情報化社会と言われる現代、日々満ち溢れる情報を広く蒐集し、百首程度に集約して読者に提供する仕事は貴重だと思う。マスコミ関係では言うに及ばず、理工学の分野でも時宜を得たレビューをものすることは、真に独創的な研究業績に匹敵するものとして評価される。しかしそれが、一人の著者による単行本ばかりでなく、分担執筆による叢書の一部であったり、学協会誌や商業誌の総説であったりするとところから、単行本に偏り易い学生用図書を選書には問題があるように思うのだがどうであろうか。

さて、浜松分館に期待される将来像は、モデル的な工学専門図書館だと思う。昭和47(1972)年に分館が現在地に新築され、浜松工業会(同窓会)からの内部施設面での協力もあって、上述の目標

は外面的には達成された。その後は、視聴覚室の運用、学生用図書購入費の飛躍的増大、他大学からの複写依頼の逐年倍増傾向等が重なって、慢性的な事務停滞の恐れが出てきたが、限られた人員でよくこれをこなしてくれている。

次に内容面の充実について言えば、JISの完備、外国雑誌の増加など見るべきものがあったが、特許の調査機能に弱味があることを痛感している。さらにスライド作成機を置くとか、教育シリーズのカセットテープを揃えとか、やりたいことは一杯あるが、上述の理由で面倒が見切れないのが現実である。積極的なリファレンスサービスについても同様で、学術雑誌所蔵目録の整備によって、調査のお手伝いをするのが今の処精一杯である。

すべてを揃えて利用者の来館を待つのが図書館の基本だと思う。どの学部でも同じ事と思うが講義は教え過ぎになってはいけない。図書館等を利用しての自学自習が大切だからである。それだけ教育的図書館の責任は重い。バックナンバーの充実もオーソドックスな文献調査法を身につけさせるに不可欠で、これはまた、シニア教育の重要な部分でもある。

一方、研究的図書館としてのすべてを揃えることは不可能に近い。幸いJICSTの業務がその穴を埋めてくれる。この種のドキュメントサービスが特定の研究に対する情報提供という形で科学・技術のあらゆる分野に進出している。その個人的な利用はすでに行なわれているが、図書館機能の一部として、その利用を検討すべき時機に来ていると思う。

しかし、メリットの裏には必らずデメリットがある。車が普及して人間が歩かなくなったと言っては歎き、テレビが子供達の生活を独占して自主的な思考力をスポイルしたと言っては歎くが、今度は学生が文献調査を面倒がって情報産業に頼ってしまう。そしてその方が結局調査洩れが少なかった、なんていう時代がやって来て、図書館の存在価値が避暑地になり下ってしまうのではないか。そしてドキュメンテーション学部の卒業生が幅を利かす時代が、すぐにも来そうな気がして焦りを覚えるのである。単なる初夢に終わってくればよいのだが。

## 私のすすめたい本・33

## 美術書

## 岡本 重温

本は書物とか図書とかいわれもするが、読物といわれると一層限定されるであろう。では、美術書とは一体どんな本と考えればよいのであろうか。それによってすすめる本も、本のすすめ方も大いに変ってくる。先日某出版社が「豪華図書目録」を届けてきた。その大部分が書道関係や写真集も含めた図録本位の美術書であり、複製の画卷や掛軸や屏風などまで写真入りで収録されている。愛蔵版とか限定版と称して何のための本かと疑いたくなるものも多い。自分にとっては垂涎措く能わざるものもあるが、すすめたい本はその目録には見出せない。個人にはすすめられないが図書館用にはすすめたい本もある。しかしそれも予算を考えれば殆んど割愛せざるをえない。美術書の出版事情の困った一面である。また一方では、本物の美術作品とは色彩などの著しく違う拙劣な複製を主体とした本もみられる。これらは幾ら安価でもすすめたくない。絵本のように、読む本というよりも眺める本であれば、まさに複製の良否が生命であろう。あるいは辞書を引くように、大体の構図や調子が判ればよいというのであれば、データ集と変わらず、美術書としての機能が疑われ、ただの社会・歴史系の事典と区別がつかない。多くの美術書はこのように豪華すぎるか、正当な鑑賞ではなく題名や作家名の列挙した目録的な知識を与えるに過ぎないといっても過言ではない。年表や資料集や文化財案内書なども、美術史や伝記なども徹底したものは稀であり、文章と図録を適当に組み合わせたカタログ程度のもが多い。また対象とする時代、地域、ジャンル、論点などの偏ったものもあり、選ぶのに苦勞する。一そう美術書と考えずに美術理論や評論の一般書をすすめるのが良いかもしれない。しかし、お役目から、日本美術関係からあげよう。

※奈良六大寺大観 14巻(岩波書店)

※大和古寺大観 7巻(岩波書店)

国宝 12巻(毎日新聞社)

※重要文化財 30巻(毎日新聞社)

これらは図録としても、資料集としても立派なものであり、解説も学問的に厳密である。

そのほか日本美術史の総説的な通史として新しいところで、次のものがよい。

※山根有三監修「日本美術史」(美術出版社)

これは一人の執筆者が一つの時代の建築・彫刻・絵画・工芸・書などのすべてにわたって総合的な叙述をするなど、実際に鑑賞できる作品と時代や

文化の捉え方との密接な結びつきを狙ったものである。

次に西洋というより世界の美術に関して、全集的なものとしては、次のシリーズはまだ完結はしていないがスケールが大きい。

L'Univers des Formes, dirigé par André Malraux et Andre Parrot. (Gallimard) [日本語版]※「人類の美術」(新潮社)

仏語版が25巻まで出ており、大体年に1巻平均で続刊されている。日本語版は大分遅れて出る。図版や図表の質も量も豊富ですぐれており、本文も格調が高い。アンドレ・マルローの東西美術論や空想の美術館論が一頃話題を呼んだが、その趣旨が活かされ、さらにフランスを中心とした考古学や美術史の水準が反映している好著である。

そのほか、西洋の古典的なものや伝統美術に関してすぐれた美術史概説や各論も多いが、ここでは現代美術の関係から少々選びたい。

ハーバート・リード「近代絵画史」(紀伊国屋) "A Concise History of Modern Paintings" 後期印象派あたりからの美術理論、評論の展開と重要画家の作品の系列や影響関係を鋭く捉え、時代背景や科学、心理学の発展とも関連づけて、歴史的叙述として非常に明快に現代絵画の本質に迫ろうとする名著である。

J. Claus: Kunst Heute (Rowohlt)

現代美術の包括的な通史として評判の高いものであり、客観的で資料的価値も高い。邦訳はないが、注目すべきものと思う。これらはどちらかと言えば現代美術に肯定的あるいは好意的であるが、むしろ現代美術に批判的なものとして、有名な評論がある。

※H. Sedlmayr: Verlust der Mitte 「中心の喪失」(美術出版社)

同じ著者の※「近代芸術の革命」や「光の死」なども邦訳が出ており、現代美術の墮落的な傾性や混乱を呼ぶ放縦などの病根を剔出することを狙い、とくに神という依りどころを見失ない、魂を非人間化してゆく時代に売り渡しかねない魔性を指摘しようとする論調は、現代美術のある一面の動向に符合するようで恐怖を感じる。それに対してはるかに好意的ではあるがやはり現代の抽象芸術を冷静に批判するのが、リュツッエラーである。

※H. Lützel: Abstrakte Malerei 「抽象絵画一意味と限界」(美術出版社)

古今東西にわたる広い視野と哲学、芸術学理論の深い知識と洞察から実に適切に抽象絵画の出でくる必然性とその可能性を論じている。カンディンスキーの※「抽象芸術論—芸術における精神的なもの」(美術出版社)と比較するのも良いと思う。

(教育学部 美術理論・美術史)

(※は本館所蔵)

## —最近の受贈図書から—

## 会社史関係

このリストは、昭和52年4月から12月までの間に受け入れた図書の中から、50年史以上の会社史を取り出して会社名のABC順に配列したものです。書名は「」で示し、末尾の( )は請求記号で、※は現在整理中のものです。

愛知日野自動車「愛知日野のあゆみ」昭和48(539.1/A23)  
 尼崎信用金庫「尼崎信用金庫50年史」昭和49(338.73/A42)  
 旭電化工業「社史旭電化工業株式会社」昭和43(570.6/A82)  
 旭コンクリート工業「五十年の歩み」昭和48(511.7/A82)  
 朝日新聞「朝日新聞の九十年」昭和44(070.6/A82)  
 安宅産業「安宅産業六十年史」昭和43(335.48/A94)  
 ブラザー工業「ブラザーの歩み—世界に挑む」昭和46(582.1/B91)  
 ダイニック「新しい流れのなかで—日本クロス創立55周年—ダイニック元年」昭和49(586.9/D76)  
 エルモ社「創造と和 エルモ社五十年の歩み」昭和49(535.85/E69)  
 長谷川木材工業「長谷川鏡次商会八拾年史」昭和42(657.067/H36)  
 八十二銀行「八十二銀行史」昭和43(338.62/H11)  
 日立造船「日立造船90周年を迎えて」昭和46(550.67/H77)  
 北海道拓殖銀行「北海道拓殖銀行史」昭和46(338.61/H82)  
 豊国産業「五十五年のあゆみ」昭和50(611.16/H82)  
 北越製紙「七十年史」昭和52(585.067/H82)  
 古河鋳業「創業100年史」昭和51(560.67/F93)  
 富士銀行「八十年史」昭和35(338.61/F56)  
 藤沢薬品工業「藤沢薬品八十年史」昭和51(499.067/F66)  
 乾汽船「乾汽船60年の歩み」昭和43(683.06/I59)  
 伊藤仁右衛門商店「両関創業百年史」昭和49(588.52/I91)  
 キッコーマン醤油「キッコーマン醤油史」昭和43(588.6/Ki22)  
 紀伊国屋「創業五十年記念誌」昭和52(023.9/Ki45)  
 紀陽銀行「紀陽銀行史」昭和50(338.62/Ki84)  
 コクヨ「コクヨ・七十年のあゆみ」昭和50(589.7/Ko54)  
 小西六写真工業「写真とともに百年」昭和48(535.85/Ko75)  
 光洋精工「光洋精工50年史」昭和44(531.56/Ko97)  
 黒崎窯業「黒崎窯業五十年史」昭和44(573.4/Ku76)  
 丸紅「丸紅前史」昭和52(335.48/Ma54)  
 丸井今井「丸井今井百年のあゆみ」昭和48(673.8/Ma54)  
 松下電器「松下電器50年の略史」昭和43(540.6/Ma88)  
 松下電工「松下電工50年史」昭和43(540.67/Ma88)  
 松崎「株式会社松崎八十年史」昭和44(584.7/Ma92)  
 明治書院「明治書院八十年の歩み」昭和51(023.06/Me25)  
 明治図書出版「明治図書六十年史」昭和46(023.9/Me25)  
 南千住製作所「創立五十年史」昭和43(530.67/Mi37)  
 港信用金庫「地元とともに五十年」昭和51(338.73/Mi39)  
 三菱鋳業セメント「三菱鋳業社史」昭和51(573.8/Mi63)

三菱製紙「三菱製紙七十年史」昭和45(585.067/Mi63)  
 三菱重工業長崎造船所「回想の百年」上・中・下 昭和50(550.67/Mi63K)  
 三ツ星ベルト「三ツ星ベルト50年史」昭和44(531.71/Mi63)  
 三井物産「挑戦と創造—三井物産100年のあゆみ」昭和51(335.48/Mi64C)  
 三井銀行「三井銀行100年のあゆみ」昭和51(338.61/Mi64)  
 三井信託銀行「五十年史」昭和49(338.8/Mi64)  
 宮田工業「宮田八十年の歩み」昭和44(537.8/Mi85)  
 森下製薬「森下製薬株式会社50年史」昭和44(499.067/Mo65)  
 南海電気鉄道「南海電鉄創業90周年記念—創造と前進の10年—」昭和51(686.9/N48)  
 日本エヤーブレーキ「50年の歩み」昭和51(531.38/N77)  
 日本勧業証券「60年史」昭和42(676.39/N77)  
 日本光学工業「50年の歩み」昭和42(535.8/N77)  
 日本車輛製造「驀進—日本車輛80年のあゆみ」昭和51(536.067/N77)  
 日本陶器「日本陶器七十年史」昭和49(573.2/N77)  
 日本鑄造「日本鑄造50年史」昭和45(566.1/N77)  
 西山合名会社「五十年の歩み」昭和44(335.48/N87)  
 日産化学工業「八十年史」昭和44(570.6/N87)  
 新田ベルト「新田ベルト90年史」昭和50(584.7/N88)  
 野村証券「50年史」昭和51(676.39/N95)  
 岡三証券「躍進—株価と岡三50年史」昭和48(676.39/O42)  
 オリオン販売「50年の歩み」昭和44(535.8/O71)  
 山陰合同銀行「山陰合同銀行史」昭和48(338.62/Sa63)  
 三星堂「風雪七十年—三星堂社史—」昭和45(499.067/Sa66)  
 新潮社「八十年小史」昭和51(023.06/D85)  
 新宿高野「新宿高野100年史 創業90年の歩み」昭和50(673.7/Sh63)  
 そごう「株式会社そごう社史」昭和44(673.8/So28)  
 住友生命保険「五十年史」昭和52※  
 住友生命保険相互会社「住友生命50年史」昭和52(339.4/Su66)  
 鈴木商館「社史」昭和45(571.8/Su96)  
 殖産相互銀行「六十年史」昭和49(388.76/Sh96)  
 昭和電工「昭和電工五十年史」昭和52(570.67/Sh97)  
 主婦の友社「主婦の友社の六十年」昭和52(023.067/Sh99)  
 タイガー魔法瓶工業「50年のあゆみ」昭和48(589.9/Ta22)  
 竹中工務店「竹中工務店七十年史」昭和44(513.9/Ta64)  
 帝人「帝人の歩み 第11」昭和52(586.6/Ta23)  
 秩父セメント「秩父セメント五十年史」昭和49(573.8/C42)  
 東京瓦斯「東京瓦斯九十年史」昭和51(575.34/To46)  
 東京チャリング「創業五十年のあゆみ」昭和51(564.9/To46)  
 東京鉄骨橋梁製作所「56年のあゆみ」昭和46(515.067/To46)  
 東京芝浦電気「東芝百年史」昭和52(540.6/To46)  
 椿本チエイン「椿本チエイン60年史」昭和51(531.78/Ts14)  
 中部瓦斯「社史」昭和51(575.34/C61)  
 和光堂「和光堂のあゆみ」昭和44(498.7/W34)  
 八木商店「創業80年史」昭和47(586.067/Y16)  
 山梨日日新聞社「百年史」昭和47(070.6/Y35)  
 読売新聞社「読売新聞百年史」昭和51(070.6/Y81)  
 雪印乳業「雪印乳業史 第4巻」昭和58(648/Y97)  
 十八銀行「九十年の歩み」昭和43(338.62/J92)

### ■外国雑誌購入費による購入雑誌について

本年(昭和52年)度から「外国雑誌購入費」が文部省より配分されることになりました。趣旨は「大学図書館における学術雑誌を整備充実し、集中管理を行うことにより、学内、地域内及び全国的な共同利用を促進し、もって学術研究の進展に資することを目的」とし、要件は「自然科学系の学術雑誌(一次資料)」を購入としています。予算は3種に分れていますが、本学に配分されたのは「学内で共同利用を図ることが望ましいもの」であります。購入雑誌は関係各部局からの推薦を基に下記のものを選定し、1977年発行ものから受入れられるよう手続きをとりました。今年1月現在で既に数誌が入ってきています。なおこれらの雑誌のうち(1)～(10)は本館に、(11)～(22)は分館に排架されます。

<本館>

- (1) Analytical Letters.
- (2) Biochimica et Biophysica Acta. Nucleic Acids and Protein Synthesis.
- (3) Historia Mathematica.
- (4) International Journal of Engineering Science.
- (5) Journal of Crystal and Molecular Structure.
- (6) Journal of Endocrinology.
- (7) Journal of Solution Chemistry.
- (8) Moscow University Mathematics Bulletin.
- (9) Plant Science Letters.
- (10) Soviet Physics—Solid State.

<分館>

- (11) American Journal of Physics.
- (12) Electronic Circuits and Systems.
- (13) Ergonomics.
- (14) IEEE Transactions on Biomedical Engineering.
- (15) Journal of Chemical Research.
- (16) Letters in Heat and Mass Transfer.
- (17) Mechanics Research Communications.
- (18) Science.
- (19) SIAM Journal on Mathematical Analysis.
- (20) Software.
- (21) Solid State and Electron Devices.
- (22) Zeitschrift für Kristallographie.

### ■教官著作寄贈図書

<本館>

若林淳之(教育学部)

「大井川土地改良区誌」 若林淳之・松本繁樹等執筆 (大井川土地改良区事務所 昭和51)

細井淳一(教育学部)

「遠江国殿谷城址調査報告書(静岡県地方史研究会研究紀要第三集)」 遠江国殿谷城址学術調査会編 細井淳一等執筆 (静岡県地方史研究会 昭和52)

\*以上の図書は4月末日まで運用係カウンターに備えてあります。御利用下さい。

<浜松分館>

宇野正美(工学部)

「コンピュータエレクトロニクス用語辞典」 宇野正美等著 (丸善 昭和52)

### ■増加図書統計(昭和51年度)

	本 館			浜 松 分 館		
	和漢書	洋書	計	和漢書	洋書	計
0 総記	615	215	830	119	11	130
1 哲学	718	451	1,169	22	2	24
2 歴史	1,575	276	1,851	17	4	21
3 社会	3,356	1,034	4,390	36	3	39
4 自然	1,715	2,346	4,061	850	1,094	1,944
5 工学	726	202	928	854	624	1,478
6 産業	771	156	927	4	0	4
7 芸術	408	239	647	11	1	12
8 語学	599	424	1,023	37	3	40
9 文学	1,494	1,348	2,842	50	3	53
計	11,977	6,691	18,668	2,000	1,745	3,745

### ■雑誌受入種類数(昭和51年度)

		本 館	浜松分館
総受入種類数		4,386	1,241
購 入	和 書	759	287
	洋 書	822	378
寄贈・交換	和 書	2,105	477
	洋 書	700	99

<お知らせ> (本館)

- (1) 春季休暇中の長期図書貸出について

貸出冊数: 4冊まで

貸出日: 2月20日(月)～25日(土)

返却期限: 4月21日(金)

\*なお、2月13日(月)～18日(土)の間の通常貸出については、その返却期限をすべて2月20日(月)とし、長期図書貸出期間(2月20日～25日)は通常貸出を停止します。

- (2) 休 館

3月22日(水)～31日(金)